

平成17年度病害虫発生予報第8号

平成17年9月8日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要 [参考]

区 分	農作物名	病 害 虫 名	発 生 時 期	予 想 発 生 量
普通作物	ダイズ	ハスモンヨトウ	-	多 い
		カメムシ類	-	やや多い
果 樹	ナ シ	黒斑病	-	やや少ない
		ハダニ類	-	平 年 並
		クワコナカイガラムシ	平 年 並	やや多い
		シンクイムシ類	平 年 並	多 い
	ブドウ	べと病	-	やや少ない
		ブドウトラカミキリ	平 年 並	平 年 並
チャノキイロアザミウマ		やや早い	やや多い	
リンゴ	ハダニ類	平 年 並	やや多い	
共通 ナシ・カキ・リンゴ	カメムシ類	-	平 年 並	
野 菜	ネ ギ	黒斑病	平 年 並	平 年 並
		ネギハモグリバエ	-	平 年 並
		ネギアザミウマ	-	平 年 並
	キャベツ ブロッコリー	べと病	やや遅い	平 年 並
		黒腐病	平 年 並	平 年 並
		軟腐病	平 年 並	やや多い
		コナガ	平 年 並	平 年 並
		ヨトウムシ	平 年 並	やや多い~多い
		ハイマダラノメイガ	平 年 並	平 年 並
	トマト・ミニトマト	疫病	平 年 並	平 年 並
		炭疽病	平 年 並	平 年 並
	ナガイモ	ヤマノイモコガ	平 年 並	やや多い
		ハダニ類	平 年 並	平 年 並
トマト・ミニトマト キャベツ・イチゴ	ハスモンヨトウ	平 年 並	多 い	
ネギ・ナガイモ	シロイチモジヨトウ	平 年 並	平 年 並	
シ バ	さび病	平 年 並	平 年 並	
	スジキリヨトウ	平 年 並	平 年 並	
		シバツトガ	平 年 並	平 年 並

気象予報 (抜粋)

1か月予報(9月3日~10月2日:9月2日、広島地方気象台発表)
向こう1か月の気温は高く、降水量と日照時間は平年並でしょう。

<可能性の大きな気温経過>

期 間	平均気温
9月3日 ~ 9日	高 い
9月10日 ~ 9月16日	高 い
9月17日 ~ 30日	平年並か高い

普通作物

〔ダイズ〕

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量 多い

(2) 予報の根拠

ア 9月第1半旬現在、フェロモントラップにおける雄成虫の誘殺数は平年に比べて多く、特に8月下旬以降急増しており、今後も幼虫による被害が増加するものと見込まれる。

イ 8月23日現在、発生ほ場率は90.0%（平年：76.7%）、平均白変葉か所数は2.6（平年：1.1）と多い発生となっている。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量と日照時間は平年並と予想されており、本虫の発生を助長する。

(3) 防除上注意すべき事項

病害虫発生予察注意報第3号（平成17年8月26日付）を参照のこと。

2 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生地域 県下全域

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月22日現在、本県ではホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシなどの発生がみられ、発生ほ場率は51.3%（平年：32.2%）、25株当たり平均成幼虫数は1.5頭（平年：0.7頭）とやや多い発生となっている。

イ 8月下旬現在、予察灯における誘殺数は平年に比べてやや多い。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されており、本虫の発生を助長する。

(3) 防除上注意すべき事項

近年、9月以降密度が急増するため、現在、発生密度が低いほ場であっても注意し、発生が増加するようであれば、トレボン粉剤DLの4kg/10a、トレボン乳剤1,000倍液、Mr.ジョーカー粉剤DLの4kg/10aなどの薬剤で追加防除を行う。

果 樹

【ナ シ】

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発 生 量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地における新梢葉での発病は、平年をやや下回った。

イ 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 新梢葉の発病増加と花芽への感染を防ぐため、収穫終了後の薬剤散布を徹底する。

イ 薬剤は、収穫終了後にアントラコール顆粒水和剤500倍液またはアリエッティC水和剤800倍液などを散布する。

ウ 越冬菌密度を下げるため、落葉後(11～12月)の落葉処分を励行する。

2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発 生 量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬現在、県予察ほ場におけるカンザワハダニの1葉当たりの寄生虫数は、0頭(平年:0.01頭)と少ない発生となっている。

イ 現地では、ハダニ類の発生が多くなっている園が一部認められる。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されており、今後、発生の増加が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発園では、収穫が終わり次第薬剤を散布する。

イ 防除薬剤は、病害虫防除指針を参考とする。

ウ 近年、越冬ダニによる春期の被害が認められている。特に、収穫中にハダニ類の発生が多く認められる園では、収穫後の防除を徹底する。

3 クワコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発 生 量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場におけるクワコナカイガラムシの発生量は平年並となっている。

イ 現地では、クワコナカイガラムシによる果実被害が多い園が一部認められる。

ウ 第2世代の幼虫ふ化時期は、平年並の8月下旬～9月上旬頃と見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 秋期にクワコナカイガラムシの発生が認められた園では、翌年に多発する可能性が高いので、収穫後の防除を徹底する。

イ 多発園では、収穫が終わり次第、ダイアジノン水和剤34の1,000倍液などを散布する。

4 シンクイムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 多い

(2) 予報の根拠

病害虫発生予察注意報第4号(平成17年9月6日付)参照。

(3) 防除上注意すべき事項

病害虫発生予察注意報第4号参照。

[ブドウ]

1 ベと病

(1) 予報の内容

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地における発病は、平年をやや下回った。

イ 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 秋季の発病は越冬菌密度の増加につながるので、収穫終了後の薬剤散布を1~2回行う。

イ 薬剤は、ICボルドー48Q 50倍、または3-2式~6-3式ボルドー液を散布する。

2 ブドウトラカミキリ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場における本虫の発生量は、ほぼ平年並となっている。

イ 本虫の成虫羽化最盛期は、ほぼ平年並の8月下旬~9月上旬頃と見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除適期は9月中旬頃であり、薬剤はスミチオン水和剤40の800倍液などを散布する。

イ 本虫の羽化は長期間に及ぶため、9月の防除では十分な効果が得られない場合がある。そのため、被害が多い園では、必ず10月中旬にモスピラン水溶剤2,000倍などを散布する。

3 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場では、平年よりやや早い7月中旬頃から密度が増加し、8月中旬の発生量は平年と比較して多かった。

イ 現地では、8月中旬頃から被害房が散見されている。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されており、今後、10月頃まで発生が続くものと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発園では、収穫終了後にパダンSG水溶剤1,500倍液などを散布する。

イ 9月に発生が増加すると越冬量が多くなり、翌年の発生源となるため、多発園では防除を徹底する。

3 ハマキムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場では、7月下旬から房の被害が散見され、平年に比べてやや多い発生となった。

イ 現地では、被害が多い園が一部認められている。

ウ 次世代成虫の発生ピークは9月下旬頃と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

多発園では、9月下旬にダイアジノン水和剤34の1,000倍液などを散布する。

[リンゴ]

1 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場におけるハダニ類の発生量はやや少ない。

イ 気象予報によると、向こう1カ月の気温は高いと予想されており、今後、発生の増加が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

発生が認められた場合は、カネマイトフロアブル1,500倍液などを散布する。

[共通(ナシ、カキ、リンゴ)]

1 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場(大栄町)における予察灯の誘殺数は平年に比べてやや多いが、鳥取市、八頭町、湯梨浜町ではやや少ない。また、八頭町における集合フェロモントラップの誘殺数は少ない。

イ 8月下旬頃から第2世代成虫の発生が増加しているものと考えられるが、本年は、山林においてカメムシ類の餌が豊富なため、果樹園へのカメムシ類の飛来はやや少ないものと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 果樹園へのカメムシ類の飛来量はやや少ないものと予想されるが、山林でカメムシ類の密度は増加しているものと見込まれるため、定期的に果樹園内を見回るなど注意して観察する。

イ 果樹園内にカメムシ類の発生が認められた場合は、病害虫防除指針を参考に薬剤を散布する。

野 菜

[ネギ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬現在の発生量は平年並である。

イ 本病は平均気温25前後が発病適温であり、降雨が多い場合に多発する。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 根傷み、肥料不足になると発病しやすいので、肥培管理に注意する。

イ 薬剤は、ダコニール1000の1,000倍液、ポリベリン水和剤1,500倍液などを発病初期から散布する。発病が増加する場合は、ロブラール水和剤1,000倍液などを散布する。

2 ネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年に比べてやや少ない。

イ 県予察ほ場における発生量は、平年並である。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、アクタラ顆粒水溶剤2,000倍液、ダントツ水溶剤2,000倍液、アグロスリン乳剤2,000倍液などを7~10日間隔で薬剤を替えて散布する。

3 ネギアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年に比べてやや少ない。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

アクタラ顆粒水溶剤2,000倍液、ダントツ水溶剤2,000倍液、アグロスリン乳剤2,000倍液、ランネート45DF1,000倍液、モスピラン水溶剤2,000倍液、アドマイヤーフロアブル2,000倍液などを7~10日間隔で薬剤を替えて散布する。

[キャベツ、ブロッコリー]

1 ベと病

(1) 予報の内容

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬現在、発生はみられていない。

イ 本病は気温が比較的低温、降雨が多いと発生が多くなる。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、発生時期は平年の9月下旬に比べてやや遅い10月上旬頃、発生量は平年並と見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア キャベツの防除薬剤は、マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）600倍液、ダコニール1000の1,000倍液、ヨネポン水和剤500倍液などを予防散布する。

イ ブロッコリーの防除薬剤は、花蕾に発生するべと病の防除を対象に、リドミルMZ水和剤の1,000倍液（鳥取県経過措置承認薬剤）を10月から10日間隔で2～3回散布する。

2 黒腐病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在の発生量は平年並である。

イ 本病は、降雨が多いと発生が多くなる。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため害虫防除を徹底する。

イ 肥料不足になると多発しやすいため、肥料切れしないよう注意する。

ウ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風の直後には、天候の回復を待つだけでなく早く薬剤散布する。

エ キャベツの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー、カッパーシン水和剤）1,000倍液、有機銅水和剤（オキシンドーフロアブル1,000倍液、ヨネポン水和剤500倍液など）、無機銅水和剤（Zボルドー500倍液など）などを散布する。

オ ブロッコリーの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー、カッパーシン水和剤）1,000倍液、有機銅水和剤（キノンドー水和剤40の800倍液、ヨネポン水和剤500倍液など）、無機銅水和剤（Zボルドー500倍液など）などを散布する。

3 軟腐病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

- ア 9月上旬現在、ほとんど発生がみられていない。
- イ 本病は、気温が比較的高く、降雨が多いと発生が多くなる。
- ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年に比べてやや多い発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため、害虫防除を徹底する。
- イ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風の直後には、天候の回復を待ってできるだけ早く薬剤散布する。
- ウ キャベツの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー、カッパーシン水和剤）1,000倍液、有機銅水和剤（オキシンドーフロアブル1,000倍液、ヨネボン水和剤500倍液など）、無機銅水和剤（Zボルドー500倍液など）などを散布する。
- エ ブロッコリーの防除薬剤は、ナレート水和剤1,000倍液、無機銅水和剤（Zボルドー500倍液など）などを散布する。

4 コナガ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 8月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年に比べてやや少ない。
- イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 苗床で発生が認められる場合には、BT剤（デルフィン顆粒水和剤1,000倍液など）、アフーム乳剤2,000倍液などを散布する。
- イ 定植時にはモスピラン粒剤、ガゼット粒剤などを株当たり1g施用する。
- ウ 本圃での発生初期には、アフーム乳剤2,000倍液、トルネードフロアブル2,000倍液などを散布し、その後、アタブロン乳剤2,000倍液、ノーモルト乳剤の2,000倍液などを7~10日おきに散布する。さらに発生がみられる場合は、コテツフロアブル2,000倍液などを散布する。

5 ヨトウムシ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや多い~多い

(2) 予報の根拠

- ア 8月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや多い。
- イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、やや多い~多い発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア キャベツの防除薬剤は、発生初期は、オルトラン水和剤、PAP乳剤(エルサン、パプチオン)の1,000倍液などを散布する。その後、トレボン乳剤、アグロスリン水和剤、ラービン水和剤75、ランネート45水和剤の1,000倍液などを散布する。

イ ブロッコリーの防除薬剤は、発生初期には、オルトラン水和剤、PAP乳剤(エルサン、パプチオン)の1,000倍液などを散布する。その後、アフーム乳剤2,000倍液、マトリックフロアブル2,000倍液、ランネート45DFの1,000倍液などを散布する。

6 ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地調査ほ場において、ごく一部を除いて発生は見られておらず、発生量も平年並である。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア キャベツの防除薬剤は、アフーム乳剤2,000倍液、マトリックフロアブル2,000倍液、PAP乳剤(エルサン、パプチオン)の1,000倍液などを、1週間程度の間隔で散布する。

イ ブロッコリーの防除薬剤は、PAP乳剤(エルサン、パプチオン)の1,000倍液などを、1週間程度の間隔で散布する。

[トマト、ミニトマト]

1 疫病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬現在の発生量は平年並である。

イ 本病は、気温20前後で施設内が多湿となる場合に多発する。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 換気を良好にし、過度にかん水を行わないように注意する。

イ トマトの防除薬剤は、発病前から定期的にマンゼブ水和剤(ジマンダイセンフロアブル、ペンコゼブフロアブル)1,000倍液、ダコニール1,000の1,000倍液などを散布する。初発生確認後は、リドミル銅水和剤500倍液、フェスティバルC水和剤600倍液などを散布する。

ウ ミニトマトの防除薬剤は、発病前からオーソサイド水和剤80の800倍液、鳥取県経過措置承認農薬であるダコニール1,000の1,000倍液などを散布する。

[ナガイモ]

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬現在の発生量は平年並である。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 肥料切れしないように適度な追肥を行う。

イ 茎葉が繁茂して薬液がかかりにくい状態なので、丁寧に薬剤を散布する。

ウ 大雨や台風の直後に、天候が回復した後できるだけ早く薬剤散布する。

エ 防除薬剤は、ダコニール1000の1,000倍液、ジマンダイセン水和剤600倍液などを使用する。

2 ヤマノイモコガ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在の発生量は平年並であるが、一部やや多いほ場が認められる。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、やや多い発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア トレボン乳剤1,000倍液、メラード水和剤1,000倍液などを7~10日間隔で2回程度散布する。

イ 茎葉の繁茂により薬液が葉裏にかかりにくいので、薬剤散布は丁寧に行う。

3 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬までの発生量は平年に比べてやや少ない。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤は、ニッソランV乳剤1,000倍液およびコロマイト乳剤1,000倍液などを葉裏にも薬剤が付着するように丁寧に散布する。

[トマト、ミニトマト、キャベツ、イチゴ]

1 ハスモンヨトウ

病害虫発生予察注意報第3号参照（平成17年8月26日付）

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生時期	平年並
発生量	多い

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場（大栄町）におけるフェロモントラップの誘殺虫数はほぼ平年並であるが、現地ほ場におけるフェロモントラップの誘殺虫数は多い。

イ 現地調査ほ場では、卵塊数が多く、若齢幼虫による被害も多くなっている。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、今後も多い発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫のうちに防除を行う。ほ場内をよく観察し、発生がみられる場合には直ちに防除を行う。

イ トマトの防除薬剤は、若齢幼虫には、アタブロン乳剤2,000倍液、マッチ乳剤3,000倍液、デルフィン顆粒水和剤1,000倍液などを散布する。若齢幼虫と中～老齢幼虫が混在する場合には、トルネードフロアブル2,000倍液などを使用する。

ウ ミニトマトの防除薬剤は、若齢幼虫期にアタブロン乳剤2,000倍液、ノーマルト乳剤2,000倍液、デルフィン顆粒水和剤1,000倍液などを散布する。

エ キャベツの防除薬剤は、若齢幼虫には、アタブロン乳剤2,000倍液、ラービン水和剤75の1,000倍液、デルフィン顆粒水和剤1,000倍液などを散布する。若齢幼虫と中～老齢幼虫が混在する場合には、コテツフロアブル2,000倍液、マトリックフロアブル2,000倍液などを使用する。

オ イチゴの苗床における防除薬剤は、若齢幼虫には、アタブロン乳剤2,000倍液、マッチ乳剤3,000倍液、ラービフロアブル1,000倍液などを散布する。若齢幼虫と中～老齢幼虫が混在する場合には、コテツフロアブル2,000倍液、マトリックフロアブル2,000倍液、アフーム乳剤2,000倍液などを使用する。

[ネギ、ナガイモ]

1 シロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域（沿岸部中心）
発生時期	平年並
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場（東伯郡大栄町）におけるフェロモントラップの誘殺虫数は、平年に比べてやや少ない。

イ 県予察ほ場（東伯郡大栄町）のネギほ場及び現地のナガイモほ場における被害はやや少ないが、一部の現地ネギほ場において、被害がみられる。

エ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 若齢幼虫期が防除適期である。これを逃すと極めて防除が困難となるため、早期発見に努め、早めに防除を行う。
- イ ネギの防除薬剤は、9月上旬にランネート45DFの1,000倍液、アタブロン乳剤2,000倍液、コテツフロアブル2,000倍液などを用いて防除を行う。
- ウ ナガイモの防除薬剤は、デルフィン顆粒水和剤1,000倍液を用いて、5~7日間隔で2回程度防除を行う。

[シバ]

1 さび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 9月上旬現在、生産シバにおける発生量は平年並である。
- イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

発生初期にバンタック水和剤75の1,000倍液、バイレトン乳剤2,000倍液などを散布する。

2 スジキリヨトウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 現地調査ほ場における卵塊数は平年と比べてやや少なく、若齢幼虫による白化葉の発生量もやや少ない。
- イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

成虫および卵塊の発生消長から、9月上~中旬が防除適期と予想される。若齢幼虫を対象にダイアジノン乳剤40、スミチオン乳剤の1,000倍液、ダーズバン乳剤40の1,500倍液、スカウトフロアブル1,500倍液などを散布する。

3 シバツトガ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 8月下旬現在、フェロモントラップにおける誘殺虫数は平年並である。
- イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、ダイアジノン乳剤40、スミチオン乳剤の1,000倍液、ダーズバン乳剤40の1,500倍液、スカウトフロアブル1,500倍液などを散布する。

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。
詳しい内容は、独立行政法人 農薬検査所の「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(<http://www.acis.go.jp/>)

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守しましょう。

< 鳥取県病害虫防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫の発生予察情報、現地巡回調査結果などの指導情報、病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所

〒680-1142 鳥取市橋本 260

TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647

E-mail : byogaichu@pref.tottori.jp 又は kttr0301@sp.jppn.ne.jp

次回の予報発表は、10月6日(木)の予定です。